

第1回 地域づくりビジョン審議会 議事録(発言内容まとめ)

・日時: 令和4年7月12日(火)

I. 昼の部: 13時30分～15時00分

II. 夜の部: 19時30分～21時00分

・場所: 問寒別生涯学習センター

I. 昼の部

[出席者(敬称略)]

審議会委員

阿部 純一／阿部 由裕／荒 正一／遠藤 直美／坂本 太一／笹井 英子／
新屋 和司／丹羽 達雄／森崎 英典／芳野 福一／和田 和子

オブザーバーその他

幌延町議会議員 斎賀 弘孝
(株)まちづくり計画設計 松村 博文
合同会社メモトック 安東 勇人
(地独)北海道立総合研究機構 石井 旭
エスエーデザインオフィス一級建築士事務所 小倉 寛征
事務局(幌延町役場)

[傍聴人数] 1名

1. 委嘱状交付
2. 野々村町長挨拶
3. 委員長(議長)、副委員長選出
委員長: 丹羽達雄 氏
副委員長: 芳野福一 氏

4. 諮問

5. 審議会概要説明

(1) 問寒別地区「地域づくりビジョン」の概要

・幌延町 企画政策課 地域対策室 室長 山下智昭

- 地域づくりビジョンの概要、策定の流れ
 - 目的
 - 少子高齢化による地域の活力・担い手の減少をカバーするため
 - いつまでも住み続けられるような町にするため

- 位置づけ
 - ビジョンは将来像を示すもので、問寒別の将来への道しるべ
- 盛り込む要素
 - 人、土地、役割等様々な要素に注目して盛り込んでいきたい
 - 人と人のつながり支えあい、仕事産業、人と外の人との融合なども盛り込むべき要素になってくるだろう
 - 現状把握、課題共有を通して今の課題を起点に解決策を探っていく
 - 作った計画の運営方法も同時に考えてゆく

(2) 講話

「今 なぜ地域ビジョンか ～発想の転換による”良さ”を活かした地域づくり～」

・株式会社まちづくり計画設計(道総研フェロー) 松村 博文 氏

- 幌延の現状
 - 人口減少と高齢化により空き家が増え、自治体の維持困難に繋がっている
 - 自治体単位では政策取り組み次第では人口推移を変えられる
 - コロナ禍で郡部人口が増えていて幌延もその傾向がある
- 日本の課題
 - 増える高齢者の中で元気な前期高齢者を活用できてないのでは
 - 社会参加で幸福度が上がるというアメリカのデータがある。特に高齢者の社会参加など日本ではその役割が確立していない
 - リタイヤした後、サービスの提供する側に回る仕組みが整っていない
 - 空き家は増えるがそれを利用して次の世代の住宅へという循環が少ない
- 田舎の強さ
 - あれがないこれがないではなく、田舎の良さ誇りを自覚すると強い
 - 災害時に近所同士で支えあい、都市よりも強い
 - 田舎のコミュニティが価値になる
 - 発想の転換: 住民の選択で町に必要なものを選択できる
- まちまかない会社
 - 公助の縮小と民間の縮小⇒その空いた分を地域運営組織が担う
 - 小さいニーズのものを小分けにして担う
 - 行政と自治体の連携
 - 地域課題の解決と高齢者の幸福度の向上が見込めるのでは

(3) 懇談会

・地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所

◎地域団体、地域事業者、学識者など、地域を構成する様々な人が参加したので、各団体の活動状況や課題の共有を今回は行う。

【地域団体】

- 委員 A
 - 町内会の後継者問題
 - 地域の活動がコロナ明けで動かせるのか
 - コロナ明けの諸々の活動について、復活させるのか新しい流れにするかはこれから決めないといけない
- 委員 B
 - 町内会の数が 27 個⇒8 個まで減った
 - 酪農を終える世代が増えていてどうするか
 - 酪農に対して全国に発信しているが、特にコロナ以降全国から反応が多い
 - 大量受け入れはできないがうまく分散して地域で受け入れる仕組みはどうか
 - 開拓で昔の若い人が開いてくれた土地が余っているのを何とかしたい
 - 産業として何かが残っていないといけない。産業に携わってくれる若い人が集まってくれるような状況を作っていないと
 - エネルギーの問題で、エネルギー消費や環境負荷は田舎の方が少ないのでそれを都市の人に認めてほしいし、それを活用していきたい
- 委員 C
 - 活動はコロナで縮小。酪農戸数も減少。高齢化も進んでいる
 - 人口減で隣家が遠く、見守りに不安
 - 町内で隣人の助け合いがもっとできたら
 - これまでは多くの人で支えあっていた。コロナや人口減でそれも縮小
- 委員 D
 - 活動はコロナで半減
 - 草刈りなどの町からの委託は大きな財源となっている
 - 老化で 5 人中 1 人しか出られないなど人手の問題がある
 - 新会員がなかなか見つからない(手伝いは良いが、会員にはなりたくない)
 - 現在会員は 23 名だが、町内でその対象人口は倍以上いるのもっと入会してほしい
 - 会の中で高齢化が進み、旅行もいけない可能性
 - お試し企画などで様々な企画を考えているが、動ける人が少なくなっている
 - 同じ世代で現役で働いている人もいるので、どう会員を集めるか

- 委員 E
 - 駅と公園の花壇整備。古布集めてござくら荘などに提供などの活動くらいしかできていない。コロナ以前は北星園の収穫祭のお手伝いなどを行っていた
 - 全員が 70～80 歳。働きながらも入ってくれる人がおらず後継者が欲しい
 - 個人的に、地域包括センターの委員も務め、地域の困ってることを助けたりという活動や情報発信もやっている
 - 活動資金は日赤奉仕団からくるものと寄付、会費で賅っている
 - 駅の花壇はずっと前から行っている。そこはずっと続けていきたい
- 委員 F
 - 週1回、0 歳から中学生まで集まれる場所でお母さんも集まれる交流の場を提供
 - スタッフも小さい子を抱えて運営しているので、自分の子を少しないがしろにしながらスタッフ活動をしなきゃいけない
 - 問寒別に他に集まれるような場所が無いので、お母さん方が集まり悩み相談できる場所になっている
 - 中学生は行事のお手伝いやボランティア、子守などをしてくれる

【地域事業者】

- 委員 G
 - 20 名弱社員がいて、現場作業(春～秋)と、共同企業体で冬の除雪を行う
 - 働き手が稚内、豊富、天塩、猿払からも通ってくる人がいる。それぞれ通勤用に会社の車を使ってもらっており、経費がかかる
 - ハローワークで募集しても人が来ない
 - とくに技術を持った人は、専門の派遣業者に依頼しても全然来ない。来たとしても短期間で辞めてしまう場合も多い。
 - 幌延はまちとして仕事が多いがその担い手が足りない
 - 農家と建設業の兼業→今はいない
- 委員 H
 - 委員 G の言う通り、人手が足りない
 - 何十年も稚内等から働きに来てる人がいるが、なかなか住んでもらえない
 - 在住者を増やさないと地域貢献にならない
 - 最近も住むとこがなくて問寒別で働くのをあきらめた人がいた
- 委員 I
 - プライベート重視の住み方もいいのでは。とくに若い世代のニーズとなってるのかも
 - 地域のことを考えてる酪農家さんと協力していけたら
 - 一歩外の町に出たらすごく協力的。キッチンカーに協力してくれる

- キッチンカー意外とウケがいい。様々な活動をしていきたい
- 委員 J
 - 東京出身。道北地域で活用しきれていない観光資源を生かして、誰かが幸せになってくれることをする
 - いろんな仕事をやってるので業種は何かと混乱してる
 - 8人くらいいるが2人問寒別在住でほかは東京に住む
 - 問寒別の人は寛容な人が多いが、うちの会社は受け入れられているのか
 - 短期とかでも東京からのスタッフや訪問者を受け入れられる場所があるか
 - 集めてきた新しい若い人をどう地域に還元するか
 - 地域にこんな仕事ができるとアピールしてみても？(石井)
- 委員 K
 - 問寒別に住んで4年目になる。いろんな人に田舎に住むのは大変かと聞かれるが、そんなことはない発信したい
 - もともとのお客さんで、2人住民票を問寒別に移した
 - 移住者増やすことは地元からどう思われているのか
 - 新しい人が来ることは変化をもたらす(石井)
 - 暮らしぶりが分かると移住につながる
 - 地域の魅力をもっと広めていきたい

◎今回出てきた課題を合わせて、今回共有したことを通してビジョンを考えていく

(閉会)

Ⅱ.夜の部

[出席者(敬称略)]

審議会委員

遠藤 雅樹／遠藤 稔／大内 寿晃／坂本 太一／高木 健太郎／千葉 浩／
中村 豊／丹羽 達雄／橋元 誠／前田 雅信

オブザーバーその他

(株)まちづくり計画設計 松村 博文

合同会社メモトック 安東 勇人

(地独)北海道立総合研究機構 石井 旭

エスエーデザインオフィス一級建築士事務所 小倉 寛征

事務局(幌延町役場)

[傍聴人数] 2名

1. 委嘱状交付

2. 野々村町長挨拶

3. 審議会概要説明

(1) 問寒別地区「地域づくりビジョン」の概要

・幌延町 企画政策課 地域対策室 室長 山下智昭

- 昼の部と同様

(2) 講話

「今 なぜ地域ビジョンか ～発想の転換による”良さ”を活かした地域づくり～」

・株式会社まちづくり計画設計(道総研フェロー) 松村 博文 氏

- 昼の部と同様

(3) 懇談会

・地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部

北方建築総合研究所 地域研究部地域システムグループ 石井 旭 氏

【地域団体】

- 委員 L
 - 高齢化が問題。水道組合などいつまで続くかと懸念している
 - この冬の集会施設等除雪は協力隊のおかげで何とかあった
 - 水道組合は、大雨の時に出勤したり、草刈り、ダム掃除などやらなきゃいけないことがあるが、今後も人口減と高齢化の中で担い続けられるか

- 委員 M
 - 地域の協力があってこそ学校の活動が進められている
 - 人口減で生徒数も減っている。10年前から顕著に減って現在は小学生13名＋中学生3名
 - コロナで活動が変化しているが、人が少ないことで全国の学校と比較したら動きやすいのでは
 - いろんな刺激を受けて成長していく中で、多くの人とかかわることができる子供たちの成長につながる
 - 授業で、将来問寒別がどうなってほしいかという話し合いを行った際に「地域に遊べるところが欲しい」や「近くで買い物ができるところがあるといい」など、子供の意見があったので反映する機会を設けてほしい
 - 生徒数減ると、先生の数が減り担当教科の指導が受けられなくなる

【地域事業者】

- 委員 N
 - 娘が中2。最初は引っ越してきたときは同級生がいなくてさみしかったが、地域のあたたかい迎え入れですぐ慣れた
 - 利尻富士、名寄、下川、枝幸、稚内、幌延を経由してきていろんな市町村に実際に住んで見てきたので、その経験を生かせれば
 - 問寒別は地域の人がとても暖かい。ウェルカムな感じ
- 委員 O
 - 離農がかなり進んでいる。その理由は様々だが、後継者がいなかったり離れていく牧場も多い
 - 新規就農や誘致を進められれば
 - 新規就農は資金問題があり、経験もある程度必要なので、なかなか簡単にはいかない
- 委員 P
 - スクールバス、患者輸送バスを毎日運航している
 - 問寒別では40半ばで若造という位置づけ
 - アルバイトのようなお手伝いがいなくて、自分がもしも何かあったときに仕事を代わる人がいない
 - 消防団については、自分の21個上の方が副団長でその間の世代に人がいない
 - 役割を断れない
 - 今までの地域運営はキーパーソンに押し付けがちで、負担になってしまうことで後継も見つけにくいと悪循環になっていた。目指すのは組織として一人ひとりの持ち味いかして分担できる形(石井)

- 委員 Q

- 今内閣府と厚労省が推し進めている行政福祉サービス事業、地域包括ケアシステムが、かつて(昭和50年代)、制度は無いけれども全て揃っていたのが実は問寒別だった。今やっていると全国から注目されるような最先端のものが存在した
- 国の方針で全部大きな町に集約されて壊れてしまったが、土台はあるので、それをまた問寒別に戻していければ、ビジョンができる

【学識経験、行政等機関】

- 委員 R

- 100年以上あって、ずっと地域の人に支えられてきた
- 3, 40年前は季節雇用や地域雇用などで今の倍、人が携わっていた
- 今スタッフは20人規模で研究や管理などを行っている
- 北大の中でも頼りにされているが、大学もお金がない
- 町とは包括連携協定を結んでいる
- 年間で3000人(日)くらい来る。コロナで3割減。宿泊施設もある
- Q マートや自販機には貢献しているのでは
- 町に外の人を呼ぶポンプ機能になっている
- クマ研は地域の農家さんとも親しかったりする

- 委員 S

- 民生委員としては、問寒別の農村地域を担当
- 担当地区のお年寄りは家族で住んでいる方が多い
- 毎年人が減っている
- 子供が後継者と予定していたが、結局やらないことに。周囲も似たケースあり
- 地場産業は酪農、そして建設
- 自己完結な酪農家さんが多い。ある程度で設備投資をやめてしまう
- 問寒別のいいことは何かやろうというときに集まってくれるところ。団結力
- バイオマス発電の導入を検討してたが途中でバイタリティがなくなった
- 地域の維持を考えたときに、産業というものを一番大事に考えないといけな
いと思う

◎住民懇談会(本音トーク)でぜひ深い話し合いを通してビジョンを考えていければ

(閉会)